

**CBC**  
中部日本放送株式会社

# 第91期報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

証券コード 9402



## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第91期報告書(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)をお届けいたします。

当事業年度においては、9月にC B Cラジオが全国民放に先駆けて開局65周年、12月にはC B Cテレビが開局60周年を迎えました。当社は今年12月に創立67周年を迎え、「100年企業」への歩みに向けては、ちょうど3分の2を経過することとなります。民間放送のパイオニアとして歴史を先導してきた当社グループは、これからも時代をリードし、地域の皆さまに信頼され、欠かせない存在であり続けていきたいと考えています。



代表取締役社長  
杉浦正樹

## 変化に対応するグループ戦略

当社グループの中核である放送事業に関しては、「若者のテレビ・ラジオ離れ」が進んでいるという声が聞かれます。若年層のテレビ受像機による視聴時間が短くなっているというデータもありますが、コンテンツそのものに対する欲求自体が低下している現象とは捉えていません。また、少子高齢化が進めば、若年層向けの市場が縮小に向かうという予測もありますが、逆に見れば、高齢層向けの市場は今後、拡大するという見方もできます。重要なのは、こうした環境の変化に対応していくことです。これまでも生活者のライフスタイルの変化やテクノロジーの進展が起きるたびに、テレビ、ラジオは進化を遂げてきました。コンテンツを日々生み出している当社グループとしては、強みであるコンテンツ制作力を一層強化し、様々な視聴者層、聴取者層に対する出口戦略を構築することで、さらにビジネス拡大の可能性が広がっていくものと考えています。

## 「次世代メディア推進会議」の発足

4年目を迎えたグループ各社の「Webフォーメーション」体制においては、「映像」「情報」「ICT」を成長戦略の3本柱として掲げています。メディアにおいては、4K・8Kの高精細映像技術をはじめ、IoT、VR、AIといったテクノロジー分野が想像を超えたスピードで進化しており、コンテンツ分野においては、OTT(Over The Top)と呼ばれる新たな動画配信事業者が台頭し、インターネットによる映像配信サービスが急速に拡大してきています。

こうした状況下で、将来にわたって成長を続けていく道を検討するため、7月に「次世代メディア推進会議」を設置しました。地域のメディア企業グループとして、これから活用していくプラットフォームの可能性および、そこに乗せるコンテンツのあり方を検証し、そして、そこから生まれる新たなビジネスモデルについて、将来に向けての検討を進めています。

## テレビコンテンツの価値向上

CBCテレビでは既にインターネット配信や海外への展開など、放送以外のコンテンツ供給も進めていますが、圧倒的な到達率を誇るテレビに、タイムシフト視聴への対応や、双方向性、拡散力のあるインターネットを組み合わせることで、テレビメディアやテレビコンテンツの価値を更に高め、新たなイノベーションにつなげていくことが必要と考えています。

一方、ローカル局として、信頼ある放送を通じて、地域社会に貢献していくこともまた、欠かせない取り組みです。『イッポウ』や『花咲かタイムズ』は同時時間帯1位を継続し、エリアを代表するブランドを確立してきました。『ゴゴスマ』は、関東地区、仙台地区に続いて、今年4月からは山陰地区でも放送が始まるなど、エリアをさらに拡大することで、ローカルから発信する生情報番組の新たな形を構築し、全国に支持されるコンテンツとして、さらに成長していくことを目指していきます。

## ラジオの新たな展開

ラジオは、通信との親和性が高いこともあり、テレビよりも先行する形で通信を活用した取り組みを進めています。「radiko」においては、エリアフリー、タイムフリー、シェアラジオという新たな展開が始まりました。また、CBCラジオでは、今年3月より「ラジチューブ」を立ち上げ、音声の記事化によるネットでの拡散を図るサービスを開始しました。さらに、次世代に向けては、CBCラジオがイニシアティブを取る形で、スマートフォンにおける放送と通信のハイブリッドラジオの実現に向けた働きかけを行っています。これまで通り、地域に寄り添った番組やイベントを継続しつつ、通信も活用してラジオメディアの有用性をアピールし、媒体価値の向上とリスナー層の拡大を図っていきます。

## 成長を促進するための基盤強化

中核の放送事業を支える基盤の強化も重要な取り組みです。3月には名古屋駅エリアの不動産を取得しました。発展著しい名駅地区に事業拠点を拡げることにより、収益拡大を図りたいと考えています。また、今年夏竣工予定のCBC西別館には、グループ会社3社を集めることで、Webフォーメーションの目的でもある、グループ会社間の連携強化を図ります。その他の保有する資産に関しても収益の最大化や新たな収益物件の開発を推し進め、経営基盤の強化に努めていきます。

また、人材面では、グループ内での人的交流による活性化や女性や高齢者が活躍できる体制、制度の構築を進めることにより、グループ全体の競争力強化を図っていく考えです。「働き方改革」についても、グループ各社がそれぞれの事業環境にあわせて健康的で働きがいのある職場を守り、向上させていくよう、あらためて業務を分析し、人事制度を含めた働き方の改善を検討しています。

## 次世代に向けて

東京オリンピックが開催される2020年が、メディアにとっても大きな節目の年になると言われています。そして、景気の反動減が懸念される五輪後も、当地区は2026年のアジア大会、2027年のリニア開通などが予定されており、潜在需要は持続すると思っています。

当社グループは、オリンピックの先も見据えて、「個で強く、協調してなお強い」グループ会社体制を基盤にして、新しいサービスやビジネスの種を播き、その芽を大きく育てていこうと考えています。

民放第一声から刻み続けた歴史と伝統を聖火のごとく次の世代につないでいくため、新しい収益構造の創出による成長戦略の推進、グループ内外の資源活用と連携強化による収益機会の拡大という目標を実現し、今後いかなる環境変化が起きても、それに対応できる磐石なグループ体制を構築し、あらゆるステークホルダーの皆さまに最大の満足を提供できるよう、弛まぬ努力を続けていきます。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成29年6月

## CONTENTS

株主の皆さまへ	1	〈不動産関連〉	10	連結損益計算書(要旨)	12
CBCグループ事業概況	3	〈その他〉	10	連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)	12
〈放送関連〉 テレビ	3	業績ハイライト	11	会社情報	13
イベント&コンテンツ	5	連結貸借対照表(要旨)	12	株式情報・株主メモ	14
ラジオ	7				
当期の主な受賞	9				

## 放送関連

このセグメントは、中部日本放送(株)、(株)CBCテレビ、(株)CBCラジオ、(株)CBCクリエイションならびに(株)シー・ウェーブで構成されます。

「放送関連」は、クロスメディア収入やイベント収入が減少した一方で、テレビスポット収入やラジオスポット収入が増加したことにより、売上高は308億48百万円(前期比1.3%増)となりました。特にテレビスポット収入は、名古屋地区投下量が前期を上回る中、好調な視聴率が後押しとなり、地区投下量の増加率を上回る水準で推移しました。

利益面では、テレビ、ラジオのスポット収入増加が寄与し、営業利益は17億31百万円(前期比59.6%増)となりました。

## テレビ

## 好調な視聴率

当期の年間平均視聴率は、全日帯(6:00~24:00)が7.9%(前期比+0.7ポイント)の2位、ゴールデンタイム(19:00~22:00)が11.8%(前期比+0.5ポイント)の2位、プライムタイム(19:00~23:00)が11.7%(前期比+0.5ポイント)の3位と、いずれも前期を上回りました。

## CBCテレビ開局60周年記念プロジェクト

「60サンキュー！」プロジェクトを展開しました。視聴者から寄せられた60の企画を過去の人気番組『天オクイズ』を復活させた『オトナの天オクイズ』(12月)などの特別番組やイベントに生かし、地域に根ざした、地域の情報インフラとして地域社会に貢献しました。



オトナの天オクイズ

## レギュラー番組

『ゴゴスマ～GOGO! Smile!～』(月～金曜 13:55～15:58放送)は、年間平均視聴率は東海地区で5.5%、関東地区でも3.4%と前期に比べて伸ばしています。放送エリアは昨年4月からの仙台地区に続いて、今年4月からは山陰地区にも広がり、ローカルの枠を越えた全国に通用する情報番組の新たな形を構築しています。また、『イッポウ』(月～金曜 16:52～19:00放送)が前期に引き続いて年間平均視聴率が同時間帯1位を記録、『なるほどプレゼンター!花咲かタイムズ』(土曜 9:25～11:30放送)は前期を超える9.5%を獲得して9年連続で同時間帯1位となり、全日帯の高視聴率に貢献しています。

ゴゴスマ  
～GOGO! Smile!～

イッポウ



なるほどプレゼンター!花咲かタイムズ

## 様々な取組み

民放公式テレビポータル「TVer」に『旅ずきんちゃん』などを配信したほか、動画サービス「LINE LIVE」を使った放送と通信のコラボレーション、「Yahoo!ニュース」へのニュース提供を新たに始め、様々な伝送路を使って番組や情報を提供し、接触機会を増やすとともにコンテンツの価値を最大化するよう取り組みました。



## イベント&コンテンツ

### ゴルフ

男子ゴルフの『第57回中日クラウンズ』(平成28年4月～5月)は名古屋ゴルフ倶楽部和合コースで熱戦が繰り広げられました。本戦の前には青木功・尾崎直道・片山晋呉ら歴代優勝者による『チャンピオンズマッチ』も行なわれ、大会が刻んだ歴史と伝統を印象づけました。クラウンズウィークの1週間で3万2,000人を超えるギャラリーが会場を訪れました。



第57回中日クラウンズ  
金庚泰選手

### 音楽

名古屋の春のクラシック界を彩る『第39回名古屋国際音楽祭』(平成28年5月～7月)は、イタリア・スポレート歌劇場によるプッチーニの名作『ラ・ボエーム』など全7公演を実施しました。また、ロック・ポピュラーでは『イル・ディーヴォ』(4月)、『ジャーニー』(2月)など数多くの公演を開催し、多くのファンを魅了しました。



第39回名古屋国際音楽祭  
イタリア・スポレート歌劇場『ラ・ボエーム』  
©CBC/木村一成

### CBCテレビ開局60周年記念事業



THE TRIBUTE



50年前に当社がザ・ビートルズを招聘したことにちなんで『ザ・ビートルズ来日50周年記念コンサート THE TRIBUTE』(6月)や『リンゴ・スター&ヒズ・オール・スター・バンド』(10月)、



ゴッホとゴーギャン展

『ゴッホとゴーギャン展』(1月～3月)などを開局60周年事業として開催しました。また、『フランケンシュタイン』(2月)などのミュージカルにも取り組みました。

フランケンシュタイン  
2017年2月 愛知県芸術劇場大ホールで名古屋公演開催  
資料提供 東宝(株)演劇部

### 映画

映画では3作品に出資し、『64(ロクヨン)』が前編後編あわせて興行収入36億8千万円の大ヒットを記録しました。



©2016 映画「64」製作委員会



## ラジオ

### 聴取率 3冠達成

地域に密着した身近なパーソナルメディアとして、「地域No.1 ラジオ局」を目指した結果、6月と12月の2回行なわれた中京圏ラジオ個人聴取率調査(12才～74才)で、総合・平日・日曜平均で1位となりました。番組別では、24年目の長寿番組『つボイノリオの聞けば聞くほど』(月～金曜 9:00～11:55放送)が今回も1位を堅持、次に2位に初めて『北野誠のズバリ』(月～金曜 13:00～16:00放送)が入り、3位には『多田しげおの気分爽快～朝からP・O・N2部』(月～金曜 7:00～9:00放送)が続いて1位から3位を独占しました。このほか4番組が同時時間帯1位を獲得しています。



つボイノリオ、小高直子アナウンサー



北野誠



多田しげお

### ラジオの魅力のアピール

CBCラジオ開局65周年として『ドリームマッチ』(4月～9月)を5本制作、つボイノリオと山下達郎など、CBCラジオと全国の人気パーソナリティがラジオをテーマに語り合う魅力あふれる対話番組を実現させました。また、『開局65周年 CBCラジオ夏まつり2016』(7月)が23万3千人を動員するなど、イベントを通して、ラジオの魅力のアピールしました。



ドリームマッチ



CBCラジオ 夏まつり2016

### 新たなリスナー獲得の取り組み

ラジオを聴いたことがない若年層にもラジオ媒体を認知させていくための新たな取り組みとして、BOYS AND MENらが「LINE LIVE」で放送と同時に動画配信をする『LINE LIVE×(コラボ)』を実施したほか、radikoでは過去1週間以内に放送された番組を後から聴くことのできる「タイムフリー聴取機能」が始まりました。



RadiChubu

さらに、ローカルラジオ局初の試みとして番組情報サイト「RadiChubu (ラジチューブ)」を開設しました。これは、番組の音声文字起こし、その最後にradikoタイムフリーのリンクを貼った記事を「RadiChubu」などで配信するもので、読んだ人が後から音声としても聴くことができる仕組みです。この「音声コンテンツの記事化」により、新しい番組の認知向上・拡散に挑戦しています。

## テレビ

### ■『古本だらけの紫書苑～“現役最年長”店主のこだわり』(広告主:紫書苑)

- 平成28年日本民間放送連盟賞CM部門テレビCM 最優秀
- 2016 56th ACC CM FESTIVAL  
フィルム部門Aカテゴリー(テレビCM) ACC地域ファイナリスト

### ■『スペシャルドラマ 三つの月』

- US国際フィルム・ビデオ祭 クリエイティブ・エクセレンス
- 東京ドラマアウォード2016 ローカル・ドラマ賞
- 4K徳島映画祭2016 地域作品賞

### ■ドキュメンタリー『消えていく「今」～7秒の記憶と生きる』

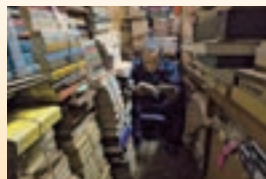
- 第36回「地方の時代」映像祭2016 選奨

### ■『人間ってすばらしい チンパンジーが教えてくれる進化の秘密』

- 第58回科学技術映像祭 科学技術教育・教養部門 部門優秀賞

### ■『伊勢神宮・命あふるる神々の森 五十鈴川を行く』

- シカゴ国際フィルムフェスティバル テレビアワード  
ノンフィクション番組部門 サーティフィケート・オブ・メリット



古本だらけの紫書苑～  
“現役最年長”店主のこだわり



スペシャルドラマ 三つの月

## ラジオ

### ■『贄の森』

- 第42回放送文化基金賞  
番組部門ラジオ番組  
最優秀賞



贄の森

## その他

### ■CBCクラブ文化賞(くちなし章)

- メセナアワード2016 優秀賞(縁の下発掘賞)

## 不動産関連

このセグメントは、中部日本放送㈱と  
(株)千代田会館ならびに(株)CBCビップス  
で構成されます。

「不動産関連」は、東京の賃貸ビルにおいてテナントからの賃料収入が増加したことから、売上高は15億81百万円(前期比6.2%増)となりました。

利益面では、増収効果に加え、減価償却費が減少したことから、営業利益は9億73百万円(前期比11.5%増)となりました。

なお、3月には、不動産賃貸事業における収益の拡大と、当社グループの成長に向けた新たな事業拠点を持つことを目的として、名古屋駅エリアに位置する不動産を取得しました。

## その他

ゴルフ場事業を営む(株)南山カントリークラブ、保険代理業などを営む(株)CBCビップスならびにタクシー業を営む文化交通(株)で構成される「その他」は、売上高が前期から微増となる14億20百万円、営業利益は1億23百万円(前期比3.8%増)となりました。

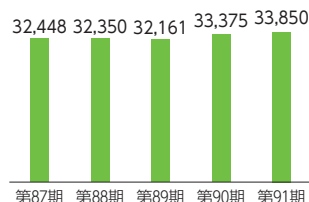


当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念されたものの、政府の経済政策等による雇用情勢や所得環境の改善から、緩やかな回復基調が続きました。また、当社グループの業績に影響を与えるテレビの広告市況につきましては、総じて堅調に推移しました。

このような事業環境の下、当社グループの当連結会計年度の売上高は、338億50百万円と前期比1.4%の増収、営業利益は28億5百万円と前期比35.0%の増益となりましたが、営業外収益において、前期には一時的な受取配当金が発生したことから、その反動減により、経常利益は31億52百万円と前期比14.4%の減益、親会社株主に帰属する当期純利益は20億51百万円と前期比10.8%の減益となりました。

(単位：百万円)

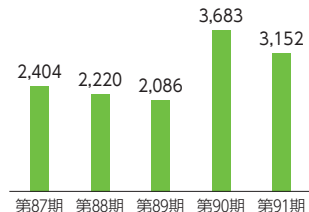
## ● 売上高 (連結)



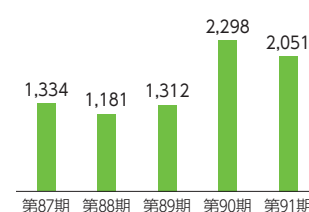
## ● 営業利益 (連結)



## ● 経常利益 (連結)



## ● 親会社株主に帰属する当期純利益



## 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 平成29年 3月31日現在	前期 平成28年 3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	23,439	26,802
固定資産	48,253	41,396
有形固定資産	27,910	23,354
無形固定資産	556	338
投資その他の資産	19,787	17,702
資産合計	71,693	68,198
《負債の部》		
流動負債	6,369	5,809
固定負債	12,517	12,478
負債合計	18,886	18,287
《純資産の部》		
株主資本	49,681	48,316
資本金	1,320	1,320
資本剰余金	654	654
利益剰余金	47,708	46,343
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	2,342	835
その他有価証券評価差額金	5,646	4,427
退職給付に係る調整累計額	△3,304	△3,592
非支配株主持分	781	758
純資産合計	52,806	49,910
負債純資産合計	71,693	68,198

## 連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	前期 平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで
売上高	33,850	33,375
売上原価	17,741	18,296
売上総利益	16,109	15,078
販売費及び一般管理費	13,304	13,001
営業利益	2,805	2,077
営業外収益	401	1,690
営業外費用	53	84
経常利益	3,152	3,683
特別利益	51	18
特別損失	48	90
税金等調整前当期純利益	3,155	3,612
法人税、住民税及び事業税	1,295	1,307
法人税等調整額	△220	△2
当期純利益	2,080	2,306
非支配株主に帰属する当期純利益	29	7
親会社株主に帰属する当期純利益	2,051	2,298

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	前期 平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	3,982	2,772
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,055	△1,241
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,085	△849
現金及び現金同等物の 増減額	△2,158	682
現金及び現金同等物の 期首残高	15,168	14,486
現金及び現金同等物の 期末残高	13,010	15,168



## トピックス

### ■ グループ協業の取り組み

グループ各社を蜘蛛の巣状につなげ、相互にリソースを活用する「Webフォーメーション」体制をいかした、新たなビジネスモデル構築への取り組みとして、当期も三河山間地域誘客促進事業「山里の魅力創造社」プロジェクトを展開しました。CBCクリエイションが奥三河の魅力を伝える番組やイベントを企画、CBCテレビで『旅MAX～山里の魅力創造社』(10月～2月)などを放送しました。

### ■ 次世代メディアへの取り組み

技術革新やICTの進展により、新しいメディアやプラットフォームが急速に台頭している中、当社グループでは、次世代の技術や新たなビジネスモデルについて検討するために「次世代メディア推進会議」を設置しました。その一環として、伊勢神宮の1年を4Kカメラで撮影した特別番組『伊勢神宮・命あふるる神々の森 五十鈴川を行く』(11月)を制作し、地上波の放送だけではなく、イベント事業やケーブルテレビ(4K放送)でも展開しました。

